

平成30年度 学校自己評価システムシート（県立浦和高等学校 定時制課程）

目指す学校像	社会的自立を目指し、未来を拓く青年の育成
--------	----------------------

重点目標	<ol style="list-style-type: none"> 1 定時制の生徒に合致した「主体的・対話的で深い学び」による授業の組織的な取組み。 2 外部教育力の活用によるコミュニケーション能力の育成による、社会的な自立心の育成。 3 キャリア教育・進路指導を進路の手引きによる組織的な取組みを実施し、進路決定に導く。 4 組織的かつ計画的に、日々の教育活動を発信し、開かれた学校づくりを進める。
------	--

達成度	A	ほぼ達成 (8割以上)
	B	概ね達成 (6割以上)
	C	変化の兆し (4割以上)
	D	不十分 (4割未満)

※学校関係者評価実施日とは、最終回の学校評価懇話会を開催し、学校自己評価を踏まえた評価を受けた日とする。

出席者	学校関係者	2名
	生徒	3名
	事務局（教職員）	9名

※重点目標は3つ以上の設定も可。重点目標に対応した評価項目（年度達成目標を意味する。）は複数設定可。
 ※番号欄は重点目標の番号と対応させる。評価項目に対応した「具体的方策、方策の評価指標」を設定。

学校自己評価							学校関係者評価	
年度目標				年度評価（3月5日現在）			実施日 平成31年3月9日	
番号	現状と課題	評価項目	具体的方策	方策の評価指標	評価項目の達成状況	達成度	次年度への課題と改善策	学校関係者からの意見・要望・評価
1	<p>・基礎学力の定着と、身に付けた学力をどのように活用するのが本校の課題である。生徒個々の学力差も大きく、理解の深まり方も差が大きい。そのため、さまざまな学習活動の工夫により多様な生徒への対応が望まれる現状にある。</p>	<p>・アクティブラーニングによる知識の定着を達成でき、基礎学力や発展的学習が深まった生徒の育成を目指す。</p>	<p>①各教科で「主体的・対話的で深い学び」による授業の実施 ②ティームティーチングの効率的な活用 ③学習サポーターの補習への活用 ④生徒に対する学習アンケートの実施 ⑤多文化共生推進員の積極的な活用</p>	<p>①全教員が授業において、「主体的・対話的で深い学び」を学期に1回以上実施 ②基礎学力定着テストにより、理解の深まりの確認 ③長期休業中の補習への生徒参加者数の増加 ④90%以上の生徒が「授業にしっかり取り組んだ」と回答 ⑤多文化共生推進員による授業前の補習を定期的実施</p>	<p>①全ての教員が、ジグソー法による授業をはじめ「主体的・対話的で深い学び」による授業を各学期に1回以上実施した。 ②数学・国語で理解度確認テストを実施した。 ③夏季休業と冬季休業において、学習サポーター及び多文化共生推進員と共に夏休み5日冬休み3日、始業前及び放課後の補習を実施した。 ④81%の生徒が授業をしっかりと取り組めたと回答した。 ⑤始業前及び放課後の補習を定期的に行うことができた。</p>	A	<p>次年度も引き続き、アクティブラーニングによる知識の定着を目指した授業を実施する必要がある。学習サポーターの積極的な活用を実施。母国語を日本語としない生徒への対応や日本語学習を、多文化共生推進員と協力し、より効果的な指導方法を検討していく必要がある。</p>	<p>・評価の達成状況には、具体的な結果を記入するにしようが良い。 ・80%の生徒が授業に満足しているのはよいが、90%の目標に対して80%の回答で、達成度Aにはならぬのではないかと。そもそも評価指標の設定値が高すぎないか。</p>
2	<p>・毎日の登校・巡回指導や生徒会中心の生徒行事の運営、さらに食育指導は、生徒の公共心を養うことに高い効果を表している。しかし社会に貢献できる主体的な行動力という点ではまだ十分とは言えない。今後さらに意識向上のための工夫が課題である。</p>	<p>・公共心を持ち、社会の一員としての自覚と自ら行動する積極性を身に付けることを目的に、多様な教育活動を充実させる。</p>	<p>①サポートステーションやNPO法人等を活用し、SSTを導入した講義の実施 ②給食指導等による「食育」を充実、食の大切さ、命の重さの指導 ③学校周辺清掃活動を発展させ、生徒の関心を高め、参加の促進 ④自発的な取組ができるよう、「浦定チャレンジ」を推進</p>	<p>①90%以上の生徒が「コミュニケーション能力が上がった」と回答 ②90%以上の生徒が「食に関する命の営みを理解した」と回答 ③全定合同による実施及び、参加者数が50%以上 ④80%以上の生徒が、自発的な取組を行えたと回答</p>	<p>①84%の生徒が友人関係を良好に保ち、コミュニケーション能力の向上を進めている。 ②86%の生徒が給食や食育を通して、食に関する理解を深めている。 ③クリーンアップ作戦には、28%の生徒が参加した。また全日制と領家5丁目自治会と合同で開催することができた。 ④89%の生徒が学校行事や授業に自発的に取り組み、充実した学校生活を送っている。</p>	B	<p>来年度の「高校生自立支援事業」の見直しに伴い、外部関係との連携方策も検討していく必要がある。クリーンアップ作戦については、内容の見直しも含め、参加率の上昇の手立てを検討していく必要がある。</p>	<p>・評価指標の設定値が高すぎるのではないかと、もっと現実に沿った設定をしたほうが良い。 ・クリーンアップ作戦では、定時制・全日制・自治会で合同実施は素晴らしいことである。この良さを生かしながらより参加者が増える方法を検討してほしい。</p>
3	<p>・「進路の手引き」を今後の有効的な利用のために内容の改善・再検討が必要である。さらに生徒の進学・就職支援を充実し進路意識の向上を図り、進路実現につなげることが今後の課題である。</p>	<p>・4年間を通して系統的なキャリア教育・進路行事等を組織的にこなし、各種の学校行事との円滑で効率的な連携を目指す。</p>	<p>①進路の手引きを利用した効率的で効果的な進路指導の推進 ②外部教育力を活用したキャリア教育の推進 ③キャリア教育研修会の積極的な活用 ④地元企業や県支援事業を利用した就労（アルバイト含む）を積極的に支援 ⑤生徒に対する進路に関するアンケートの実施</p>	<p>①進路の手引に則した学年ごとの指導計画の実施状況 ②生徒の進路決定率とアンケート結果 ③キャリアカウンセラー養成研修会への参加 ④生徒の就労率65% ⑤90%以上の生徒が「自分の進路について考えている」と回答</p>	<p>①校内進路行事を3回、校外進路行事を2回、サポステ進路行事を2回、合計7回の進路学習を行うことができた。 ②生徒は、希望する進路を決定することができた。（大学2名、専門学校3、高等技術専門学校3名、就職5名）進路決定率は93%である（3月5日現在）。生徒アンケートの結果、生徒自身が満足できる進路結果となった。 ③キャリア教育研修会に1名の教諭が参加し、進路指導の研鑽を深めた。 ④生徒の就労率は70%であり、アルバイトや仕事をしている生徒の数が増加しつつある。 ⑤65%の生徒が進路についての希望や将来の夢を持っている。</p>	B	<p>まだまだ将来の夢や進路について、深く考えることができていない生徒が多数見受けられる。今後も、地域の教育力を活用しながら、生徒のキャリア教育を推進し、進路実現に向けた取り組みができるよう、組織的な取り組みが必要である。また、キャリア教育におけるプログラムの内容を検討する必要がある。</p>	<p>・定時制の生徒の就労率70%をどのように考えるのかである。定時制でも、午前中勉強をして大学を目指す生徒がいてもよいのではないかと。 ・進路についての希望や将来の夢が65%であることは、問題である。対策を考えるべきである。</p>
4	<p>・保護者会への参加希望は多いが、実際の参加率はその半分程度である。今後保護者が参加しやすい時期や内容を検討していく工夫が必要である。また、中学校との連携を維持・強化することが課題である。</p>	<p>・学校HPを活用し、情報発信を積極的に行い、生徒保護者や中学校との連携体制を構築する。</p>	<p>①公開行事等において、保護者の参加を促し、日常の教育活動の理解への強化 ②長期休業等での中学校訪問を行い、中学校との連携体制を強化 ③保護者対象のアンケートを実施 ④学校HPの定期的な更新と内容の改善 ⑤一斉メール配信のシステム構築</p>	<p>①保護者対象の講演会等に前年度を上回る保護者が参加 ②授業公開における中学校関係者の来校者数と中学校訪問回数 ③保護者会に「参加した」と「参加したい」の検証 ④更新回数及び閲覧数の増加 ⑤一斉メールの登録者数80%</p>	<p>①公開行事において、保護者の参加者数は前年度と同様12～16名の参加があった。 ②公開授業へは中学生、保護者、教員等12名が参加した。（平成29年度は5名の参加であった） ③アンケートの結果、61%が保護者会に参加をし、66%が保護者会に参加したいと答えた。またアンケートの結果、子供を定時制に入学させて良かったと95%の保護者が回答をした。 ④HP更新回数は100回を超え、閲覧数は68680件（2月25日現在）であった。 ⑤保護者会でメールの登録を呼びかけた。70%の生徒及び保護者の登録があった。</p>	A	<p>保護者会の魅力を伝えきれていない。今後も根気強く保護者向け講習会や、公開授業や保護者会を実施し、HPやメール配信による学校の教育活動の情報発信を積極的に行い保護者への学校の教育活動の理解を進める。並びに地域住民や中学校への定時制の理解を深める。</p>	<p>・HPの内容を充実させるための更新回数増加であり、定時制のHPは面白いと言われるような、何回も見たいような内容の充実したHPの作成が大切ではないか。 ・一斉メールの登録者数は100%であるべきで、保護者には必ず入ってもらうようにする。</p>

